

「統計の意義と重要性」を本校生徒に語る

～世界統計の日になんだ出前講座を総務省が実施～

令和7年9月9日（火）2、3年生の理系選択者110名を対象に、総務省の担当者が統計の意義と重要性について語る出前講座が行われました。この講座は、今年2025年が5年に一度定められた「世界統計の日」であること、及び日本では「国勢調査」の年であることにちなんで、総務省が高校生への「統計」に関する出前講座の企画です。岐阜県内では初めての実施で、「数学のまち」を掲げる本巣市にある本校が選ばれ、実現しました。

講座は「数学と自律性が社会を構築する」と題して、統計の役割に加えて論理的思考力の重要性について、講師が具体的な事例を挙げながら行われました。講座を受けた生徒の一人は「数学は元々好きだが、今日の講座を通して、論理的に考えることで、統計が社会に意義ある存在だと気付くことができた。」と感想を述べていました。

今回、講師を務められた総務省行政評価局の田村彰浩さんは「自分がどんな社会を実現したいかを考え、その実現のために統計を使って欲しい。」と本巣松陽生への期待を語ってくれました。

